

心をみつめる

第三十五

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。
老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

どうか、日々の中に供養の心を 忘れないでいてください

現代の世の中は、「コスパ」「タイパ」といった言葉に象徴されるように、すべてを効率で測る空気に包まれていきます。実際、「葬儀は費用も手間もかかるから直葬でいい」「遠方からの法事は負担が大きいから省略したい」といった声も少なくありません。

とくに、魂や来世といった宗教的な考えに関心が薄い方にとっては、亡き人は「もういない存在」であり、そこに祈る意味も感じにくいのかもしれません。しかし、本当にそうでしょうか。

亡くなった方は、単なる“過去の人”ではありません。その人が生きた証は、いま私たちの中に、日々の暮らしの中に、確かに息づいています。供養とは、故人をただ思い出す時間で

はなく、今の自分の人生を、故人と共に歩んでいくための時間でもあるのです。

「この選択でよかったのかな…」
「おじいちゃんだったら、こう言うただろうな」
「お母さん、あのとき私にこうしてくれたな」

そんなふうに、故人の言葉やまなざしが、今の自分の中にふとよみがえる瞬間があります。

供養とは、過去に向けた儀式ではなく、いま、ここにいる自分の人生の中に、故人という存在が共にあることを確かめる時間なのです。

そしてもうひとつ、供養には「つな

がりを取り戻す力」もあります。

法事の場に久しぶりに集まる親戚たち。「大きくなったね」「元気にしてた？」そんな何気ない言葉のやりとりの中に、故人が紡いできた“縁”が、再び息を吹き返します。

供養は、先祖と子孫をつなぎ、亡き人と今を生きる私たちをつなぎ、そして親戚や家族という人と人とのつながりを再び生み出していくものなのです。合理的な効率では得られない、心と心の豊かさ、深さ——。それこそが、供養の本質なのではないでしょうか。

葬儀もまた同じです。盛大である必要はありません。供養とは、亡き人を偲ぶ時間であると同時に、いまを生きる私たちが、自分の根を見つめなおし、これからの生き方を整えていく時間でもあります。

たとえ家族だけの小さな見送り



副住職
小林正圓 さん



禅宗 高岳寺
若松区白山 3-7-43
093-761-5674



あっても、そこに「あなたの人生を大切に思っています」「共に歩んできたことを感謝しています」という祈りが込められていれば、それは立派な供養です。

供養とは、亡き人を偲ぶ時間であると同時に、いまを生きる私たちが、自分の根を見つめなおし、これからの生き方を整えていく時間でもあります。

どうか、日々の中に、供養の心を忘れないでください。それは故人のためであり、家族のためであり、そして何より、今を生きるあなた自身の心を育てるためなのです。